

平成 30 年度 教員地域貢献活動支援事業(協働型) 成果報告書

課題名	課題解決型まち活性化プロジェクト				
研究者	代表教員氏名	国際総合科学部 教授 鈴木 伸治			
	事業ユニットの構成(代表者除く)	国際総合科学部 准教授 三輪 律江			
提案者	京浜急行電鉄株式会社				
課題					
<p>金沢区は横浜市の中でも最も人口が減少しており、京急沿線の中でも高齢化が進んでいるエリアである。特に若年層や新規入居者の減少により、将来的な地域の衰退が予想される。新規居住者を増加させ、持続可能な地域づくりを進めていくためには、以下の2点が課題である。</p> <p>1)大規模戸建て住宅地の活性化 大規模戸建て住宅地である能見台・富岡地区における地区の抱える課題・地域住民のニーズ把握、地域住民の利便性向上となるような新たな機能・サービスのアイデア検討</p> <p>2)金沢区心部における土地利用のあり方に関する検討 金沢区心部におけるふさわしい土地利用と新たな交流拠点の検討</p>					
課題解決の方法					
<p>課題を解決するため、以下2点を中心に検討を行う。</p> <p>(1)戸建て住宅地の再生 大規模分譲をした戸建て住宅地である能見台・富岡地区において、地域住民の課題・ニーズ把握のための調査を実施し、地域住民の利便性向上となるような新たな機能・サービスのアイデアを検討する。</p> <p>(2)区心部の将来像検討 金沢区役所を核とする金沢区心部におけるふさわしい土地利用と新たな交流拠点の検討。</p>					
研究実績報告(スケジュールと内容・成果)					
<p>5月 学生によるフィールドワーク 7月～12月 自治会活動等についての調査 1月 遊休施設暫定利用についての提案 1月～3月 住民ワークショップへの参加(計3回)</p>					
連携機関(提案者以外)	特になし				
得られた効果及び自己評価					
<p>能見台・富岡地区を対象とした大規模戸建て住宅地の活性化プロジェクトについては、29年度に住民アンケートを実施し、それをもとに地域への説明、プロジェクトのスタートアップを行う予定であったが、提案者である京浜急行電鉄と地元住民組織との意見調整に時間を有し、実際に実施予定であった、研究会についてはは見送られた。その間、本学からは学生も参加する形でフィールドワークを実施し、提案者の関連会社が所有している遊休施設の暫定利用の提案などを行なった。また、1月からは住民ワークショップが開催され、市大チームとして参加した。</p>					
今後の課題と展開					
<p><今後の課題> 全体として、地域住民との関係構築が重要なプロジェクトであり、時間はかかったものの、1月からワークショップを実施することができたことは大変大きな成果であり、遊休施設の暫定利用の提案が受け入れられたことも大きなステップである。スケジュールの遅れを取り戻しつつ、住民との関係性を重視しながら活性化案を策定することが今後の課題である。</p> <p><今後の展開> 3月のワークショップにて、春以降、商業施設前の広場や遊休施設の暫定活用によるイベントの開催などを住民サイドにも提案し、了解が得られた。これに基づき、5月から定期的な社会実験イベントの実施と住民を交えた勉強会を実施していく。</p>					
研究発表(投稿準備中、投稿中、発表予定を含む)					
<p><発表> 特になし <報道機関による紹介> 特になし</p>					
研究成果による知的財産権の出願・取得状況					
知的財産権の名称	発明者名	権利者名	知的財産権の種類、番号	出願年月日(和暦)	取得年月日(和暦)
特になし					